

第76回入学式 校長式辞

桜花爛漫の今日のおき日、ここに兵庫県立尼崎北高等学校「第76回入学式」を挙行できますことは、本校にとって、この上もない喜びとするところでは。本校の教職員を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

ご来賓の皆様には、ご多忙の中ご臨席を賜り、錦上花（きんじょうはな）を添えて頂きましたこと誠にありがたく、高壇（こうだん）からではございますが、厚くお礼申し上げます。

また、保護者の皆様、ご出席ありがとうございます。皆様の熱心さは、何よりも学校の支えでございます。

先ほど入学を許可しました281名の皆さん、入学おめでとうございませう。今日から皆さんは、尼崎北高校の生徒として本校で学ぶことになりました。

本校は、大正11年に設置された中外商業学校と琴浦女学校を前身に、尼崎市立北高校を経て、昭和26年10月に兵庫県に移管され、兵庫県立尼崎北高等学校として設立されました。「尼北、北高」の愛称のもと地域の皆様方の温かい支援を受けながら、ここ尼崎の塚口の地で発展を続けてまいりましたが、令和3年には、創立100年という大きな節目を迎え、自主性を重んじた校風など、受け継いだ有形無形の財産を次世代に継承しつつ、次の10年、20年、そして更なる100年に向けて新たな一歩を踏み出しところです。

さて、新入生の皆さん、皆さんがこの日を迎えることができたのは、もちろん自身の努力があつてのことだと思ひます。しかし、その陰には、親身になって支えてくれたご家族の計り知れない支えがあつたことを忘れてはなりません。また、学校生活や学習の基礎を築いてくれた小学校、中学校の先生、つらく苦しい時に傍で励ましてくれた友人など、さまざまな人に支えられて今の自分があるはずでせう。感謝の気持ちを忘れず、自分を大切にしてい、責任と思ひやりある高校生になってほしいと思ひます。

そして、入学に当たり皆さんに心にとめておいて欲しいことをお話しします。それは、「日々の小さな決断を大切にしよう」ということでは。

『人生は選択の連続である』

この言葉は、劇作家ウィリアム・シェイクスピアの作品『ハムレット』に出てくる有名な一文です。

普段そんなに意識することはありませんが、私たちは、1日に1,000個以上の決断をしていると言われていています。『決断』というと、人生の一大決心というイメージがありますが、実は朝起きてから寝るまでの間、小さいものから大きなものまで、色々な決断を繰り返しています。つまり、現在の自分や自分の置かれている状況は、『過去の決断の結晶』ということです。

そして、過去の決断の繰り返しが現在ならば、現在の決断の繰り返しが未来を形づくるということにもなります。

理想の未来を実現するために、『現在の延長線上に未来がある』という意識をもちながら日々の小さな決断を大切にしてほしいと思います。

そして、時には、重要ではないことは切り捨てる勇気をもつことです。もっと簡単に言えば『やらないことを決める』ということです。

人間の生まれつきの才能や処理能力には差がありますが、しかし、時間は誰しにも平等に24時間しかありません。

3年後、皆さんには次のステージが待っています。進路の実現に向け、時間を有効に活用するために、『やらないことを決める』勇気をもって欲しいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。大切なお子様を本校の生徒として、本日よりお預かりすることになりました。

私ども教職員一同、全力をあげてお子様の教育に取り組む所存でございますが、教育は、家庭と学校が連携してこそ実を結ぶものであります。どうか、本校の教育に温かいご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

お子様が、本校での三年間、充実した日々を過ごされ、人として確かな成長を遂げられますことを祈念して式辞とします。

令和5年4月10日
兵庫県立尼崎北高等学校
校長 岡本 勇人